

第4章

事業に対する評価

1 各国ナショナル・リーダー評価

(1) オーストラリア連邦

ナショナル・リーダー

オーストラリア・デリゲーションを代表し、令和4年度「世界青年の船」事業(ハイブリッド)にオーストラリアを参加させていただいたことに対して、日本国政府内閣府に御礼申し上げます。本事業は、異なるバックグラウンドを持つオーストラリア青年が日本について学び、日本や他の参加国の若者と深いつながりを形成する、またとない機会でした。そうした関係は、新型コロナウイルス感染症による危機を脱し、複雑さを増すグローバルな課題に直面し続ける中で、ますます重要になります。これは、オーストラリアと日本との関係のみならず、オーストラリアと他のSWY参加国との関わりにおいても言えることです。こうした関わりを促進するに当たって日本が果たしてくださった役割に感謝いたします。

オンライン交流でのディスカッションと、日本での対面交流で構成された本事業は、私たちのデリゲーションにとって、機会と課題の両方を提示するものでした。オンライン交流では、毎週のZoomセッションと仮想空間oViceにおける交流によって、経験や考え方を共有し始め、新たな友人に出会い、共通の問題に対する解決策を検討することができました。対面によるやり取りができなかったため、特に持続可能な都市、平和、青年といった複雑なテーマについて話をする際は、文化的な違いを超えてコミュニケーションをとるのが難しいこともありました。しかしながら、そうした困難は、日本で共に過ごす時間を最大限に活用するとともに、事業終了後に異なる国のPY同士がオンラインでより確実にコミュニケーションをとれるようにするきっかけとなりました。こうしたオンライン交流は、Zoom等のバーチャル・プラットフォームを利用し国境を超えて行われる事後活動を、より多く生み出すものでもあると信じています。今後のハイブリッド形式事業においては、オンライン交流と対面交流との間の期間をより短くし、よりまとまったプログラムとすることを提案いたします。また、皆にとってアクセスしやすく使いやすくするため、よりシンプルな技術の使用とコミュニケーション・プラットフォームの一元化も提案いたします。

対面交流は、私たちのデリゲーションにとって人生を変えるような経験でした。ナショナル・プレゼンテーション、コース・ディスカッション(CD)、自主活動、非公式の交流は、他国デリゲーションの文化や歴史を理解するのに役立ちました。また、重要なことに、各国の違いだけでなく、似ている点を見つけるのにも役立ちました。これを基に私たちは、より良いグローバル市民となるだけ

でなく、持続可能な開発目標(SDGs)への取組を進めるために、文化を超えてより効果的にコミュニケーションをとり活動していくことができます。一緒に集まれる空間がより多くあれば、更に非公式の交流を促進し、より良い経験ができると考えます。そうした空間を増やすことは、参加者の年齢や語学レベルが異なることを考えれば重要であり、自身の文化や考えをもっと共有できる空間を作り出す一助になります。そして、よりインクルーシブなグローバル社会を培うことにつながります。

今年度は、CDに大きな焦点が当てられ、多くの時間が割かれていました。対面交流が短期間であったことを考慮すれば、そこに焦点を当てるのは賢明な選択だったと思います。OPY一人ひとりが、たった一人で自国を代表し自分の足で立つプラットフォームを与えられました。そして、全11か国のPYがグループとして結束しやすくなりました。各CDグループにおいてたった一人で自国を代表するのを重荷に感じたOPYもいたと思いますが、その経験は、自分のコンフォートゾーンから踏み出し他国のPYと信頼関係を築こうとするに当たって非常に重要であったと思います。

課題別視察と地方プログラムは、日本文化と、日本青年がどのように世界を目にし体験しているのかを垣間見るハイライトとなりました。幸運にも、日本の名所に加えて、県庁・市役所や地域の学校などの施設を訪問することができました。私たちのデリゲーションの一人は、神奈川県重要なインフラを訪問し、日本における都市インフラが、学校から社会問題に取り組むNPOにいたるまでの社会インフラとどのように関わり合っているかを目にする機会を得ました。同様に、デリゲーションの別のメンバーは、函館市への訪問でバリアフリーのインフラやインクルーシブなコミュニティを作る取組について議論し、多くのものを得ました。多くのオーストラリアPYにとって、最も印象的だったのは、地域の学校を訪問し、生徒たちと交流したことです。生徒たちが知識や情熱を持ち、意見が対立しがちなトピックについてもオープンであることに感銘を受けました。究極的に言えば、こうした経験ができるからこそ、グローバル・リーダーシップや文化交流に関する事業としてSWYは際立っています。私たちは、21世紀を生きる日本人についてよく知るとともに、日本がどのように現代社会の課題に取り組んでいるのかについて、意識を高めて日本を離れました。

ハイブリッド形式の事業であったため、通常のSWYと比べて、多様なオーストラリアPYが参加できました。私

たちのデリゲーションには、教員、弁護士、医療従事者、公務員といった職業経験を積んだメンバーが含まれていました。このため、オーストラリア・デリゲーションは、SDGsで取り上げられている問題に取り組んできたこれまでの職業経験や洞察について考察し、それを共有することができました。この点はCDのみならず課題別視察や地方プログラムでも重要となり、全ての参加者にとってより豊かで見聞の広がる経験になったことを願っています。他方で、デリゲーションの多くのメンバーは、もう少し長期間のプログラムであれば良かったと感じています。もっと時間がほしいと感じたということは、SWYハイブリッドが、終わってしまうのが悲しいと皆が思うような、本当に特別なものを作り出すのに成功したことの

(2) バーレーン王国

ナショナル・リーダー

バーレーン王国デリゲーション、SWYAAバーレーン、バーレーン王国青年スポーツ省を代表し、バーレーン王国をSWYハイブリッドに招へいいただいたことに対して、日本国政府内閣府及び事業にご尽力いただいた全ての県市に心から御礼と感謝を申し上げます。1972年に樹立されたバーレーンと日本の二国間関係が、これまで長年にわたって続いており、これからも続いていくことは、公知の事実です。両国の協力により、非常に良い成果が数多く生み出されました。その一つがまさにSWYです。

総じてSWYは、社会をより良くし、社会の成長に貢献するため、様々な分野においてリーダーの役割を担う青年を育成することを目指してきました。SWYAAのコミュニティと、世界中に多数存在するSWYerが、事業が大きな影響力を持ち、成功していることの証となっています。

SWYハイブリッドのバーレーン・デリゲーションとして、青年のエンパワーメントという観点から世界中の青年リーダーの育成に取り組んでくださっていることに対して、日本国政府に御礼申し上げます。SWYハイブリッドのバーレーン・デリゲーション及びSWYAAバーレーンは、日本から帰国後100日以内に一連の事後活動を提案することで、SWYコミュニティに成果を還元することを約束します。これらの活動では、SWYでの体験を、自国の既参加青年そしてSWYに加わる機会のなかった青年と共有することに焦点を当てます。SWYは単なる事業以上のものであると信じているからです。こうした活動は、社会的責任に関する活動、ネットワーキング・セッション、人材開発のための双方向型ツールから構成されます。

さらに、SWYハイブリッドを他の年度や形式のSWYと比較するに当たって、いくつかの点を強調したいと思います。ハイブリッド形式で行われる初めてのSWYは、大きな成功を収めたと言えます。青年のエンパワーメントというSWYの究極的な目標を達成し、PYがグローバ

証であると考えます。オーストラリア・デリゲーションがSWYハイブリッドに参加する機会をくださった内閣府に、心から感謝いたします。本事業の最後にオーストラリアPYと話したところ、自分たちがどれだけ多くを得て個人的に成長したかに驚いていました。今年のSWYは短期間でしたが、多くのPYに非常に大きな変化が見られました。本事業で得られた知識、経験、つながりは、オーストラリア・デリゲーション全員の中にとどまり、将来にわたってずっと私たちの行うことに影響を与え続けると確信しています。私たちは日本とオーストラリアの恒久的な関係を歓迎し、今年の事業に参加したことで、その関係がさらに強固になると前向きに考えています。

ルな観点から共通の問題について学んで議論し、国際的な意識やリーダーシップ能力を涵養すべく、多文化・多国籍の交流機会が得られる様々な活動に参加できたからです。

ハイブリッド形式によるSWYにおいて、PYは、日本に到着する前(2022年11月から12月)にバーチャル・プラットフォームを通じて事業に参加し、関係とネットワークを構築することができました。そこでPYは皆、対面交流の前に互いについて知ることができました。時差はありましたが、私たちのデリゲーションにとっては対応可能な問題でした。

私が過去SWYに参加した際も、今年度と同様、PYは異なるコース・ディスカッション(CD)のグループに分かれ、世界の青年たちと、オープンな国際的対話を行いました。しかし今回は、SDGsに取り組むという点でより充実しており、最適な人材開発の観点に沿った実践的な学びによって、CDはより豊かなものとなりました。今年最も付加価値があったのは、大きな投資であった地方プログラムであり、CDに沿った、実践的な視察、内省的学習、アクティビティベースのツールを用いたディスカッションを伴うものでした。CDのチームと何か所かを視察する機会があり、教室での学びを実生活での活動に反映させるのに役立ちました。また、過去の地方プログラムは主にデリゲーション単位で行われましたが、今回、CDごとに各国PYと一緒に各地を訪問したことにより、SWYerとのネットワークとコミュニケーションの範囲を広げることができました。

毎朝、NLのリーダーシップの下で、ホーム・グループ単位で行われたモーニング・アセンブリーは、NLとして自分のグループを形成するという意味で素晴らしい経験でした。ネットワークにより多くのSWYerを加え、彼らの経験から学ぶことができました。私はこれを「SWYス

ピリット」と呼んでいます。

地方の県市への充実した訪問を企画してくださったことに感謝し、心から御礼申し上げます。PYは皆、日本の別の一面を見て学ぶことができました。事業全体の中での重要なハイライトとなり、PYは、日本、日本文化、日本人について本当の姿を知ることができました。地元青年たちは、様々なプログラムを企画し、事務局や地方政府をサポートするに当たって職業意識が高く、海外からの訪問者でありPYである私たちに大きな影響を与えました。

青年リーダーの育成に関しては、プログラムを世界銀行によって上位に格付けされたスキルと結び付け、青年がそうした必要とされるスキルの獲得に向けて正しい道

(3) ブラジル連邦共和国

ナショナル・リーダー

「世界青年の船」事業 (SWY) とは一体何であるかを、外部に説明するのは難しいかもしれません。おそらく、異文化間の相互理解や、独自の文化、考え、伝統、言語を持った別個の存在を前に、地理的境界線がいかに小さなものかを言葉にするのが難しいのだと思います。

光栄なことにブラジルは、今年度のSWYハイブリッドに招へいいただき、この人生を変えるような体験に12回目の参加を果たしました。個人的には、SWYに2回目の参加ができたことを光栄かつ誇りに思います。9年前に私が初めて参加した「グローバルリーダー育成事業」は、私の人生の転換点となりました。

ブラジル・デリゲーション全員を代表し、活動場所の清掃、活動場所への移手段の提供、食事の準備をしてくださった方々から、SWYを企画してくださった方々にいたるまで、事業に関わった全ての方々に感謝いたします。

特に、次世代の世界のリーダー育成を進める環境を提供してくださる日本国政府内閣府、グローバル化の進む社会において不可欠な役割を果たすため青年国際交流を推進してくださる(一財) 青少年国際交流推進センター、過去のPYを通じてSWYの理念を深化させ、事業の中で学んだ文化を広め、世代を超えてSWYスピリットを生かし続ける日本青年国際交流機構 (IYEO) に御礼申し上げます。

パンデミック後も青年国際交流を推進し続けることを目指して、SWYは、ハイブリッドという異なる形式を打ち立てました。今後のPYには陸上及び船上で完全な体験をしてほしいと、SWYコミュニティの声としてお伝えしたいと思います。

オンライン交流

時差の影響を最小限にするため、2つの異なるグループでのオンライン交流が何度か企画されました。

を歩むようにすることが非常に重要であると考えます。さらに、「SWYリーダーシップ・コンピテンシー (能力)」を設定し、社会の現状と動向に基づいて、PYが身につけるべき主要な能力を特定することも非常に重要です。SWYAAバーレーンは、このモデルの確立に貢献したいと考えています。統一的なモデルと能力の設定があれば、そちらとコースの足並みを揃えられます。

最後に、バーレーン王国は、事業を企画してくださったことに対し、日本国政府内閣府に改めて御礼申し上げます。SWYAAバーレーンは引き続きSWYにコミットし、事業を支えるべく更に連携できることを楽しみにしています。

PYにとって、オンライン交流の経験は、初めてのデリゲーションを超えたやりとりとなり、友情を築き始めることができ、コンピューターとカメラ越しではありましたが相手の顔と声を認識することとなりました。

対面で会う前に個人プロフィールを書きSNSや連絡先を共有するというのは、SWYの歴史において革新的な試みでした。SWYコミュニティでは、履歴書ではなく個人的な物語やアイデンティティが共有され、それが最初のつながりを生み出していました。

共同で双方向型の活動ができたり、異なるデリゲーション間の交流があったり、タイムゾーンによって分けられた2グループが短期間であっても混ざり合うことができたりすれば、オンライン交流期間の体験がより豊かになったと思います。

他方、NLにとって、対面交流の準備は特有かつ必要な役割です。各NLは、独自の文化的側面や言語を持ち、異なるタイムゾーンに位置する国を代表しています。同じ時間に同じ場所で行われる対面交流は、各NLにとって、デリゲーションの特色を表現し、プログラムの活動を企画し、非同時コミュニケーションの障壁に煩わされず共に考えるための必須ツールです。一般的にNLは、既に職業経験があるので、短期間日本でのプログラムに没頭することで、活動やデリゲーションの準備に関して企画側と協働し、完全に本事業に専念することができます。

仮想空間における交流

コンピューターの画面越しに大きな人間味のある交流を行うのには、大きな困難を伴います。仮想空間における交流では、理想的に言えば、タイムゾーン、各国における機材環境、雨期、仕事や学業、各国が直面するその他の特別な事情といった要素のバランスを取る必要があります。

参加者は、仮想空間を本当に楽しんでいました。しかし、より幅広い参加者にとってアクセスしやすいもっとシンフルなツールがあれば、仮想空間での交流がより良いものになったと思います。

対面交流

SWYが提供する最も貴重な価値の一つが、人と人との交流です。こうした交流は、対話だけでなく、喜びや苦難の瞬間を受け入れるジェスチャー、共感の視線、長いハグを通して起こります。

初めてのSWYハイブリッドは、通常とは異なる環境(陸上のみ)で行われました。日本では素晴らしいホテルに宿泊し、窓から富士山が見える部屋もあって素晴らしい眺めでしたが、船で生まれるつながりや強い絆といった感覚を再現するのは難しかったかもしれません。

それでもSWYコミュニティは、事業の目標の多くを達成できました。コース・ディスカッション(CD)でコミュニケーション能力や批判的思考能力を伸ばし、セミナーの主催に当たって積極的な役割を果たし、自主活動では文化交流の時間や安全に楽しめる空間を作り出しました。さらに、課題別視察や地方プログラムを通じて日本の人々や文化について知る機会を得ました。

異文化理解を通じて人間的に成長するという最も貴重な価値を実現しSWYの目的を達成するためには、公式のプログラム中もその後も、参加者同士が交流するためのオープンで安全な場所を提供することが必須です。

本事業は、次のようにすることで、より良いものになると考えます。(1) レター・グループを公式に復活させること。レター・グループは強いつながりを作る瞬間の宝庫であり、過去のPYのコミュニティにおいて高く評価されています。(2) 事業の目的(リーダーシップ、デザイン思考、プロジェクト・マネジメント、異文化理解)に関連した講義又はワークショップを実施すること。(3) 事後活動(PPA)のためのセッションを増やすこと。そうすることで、デリゲーションのメンバー間の交流だけでなく、国際レベルでのPPAを生み出すためにデリゲーション間の対話を行うための空間を作ることを目指します。国際レベルのPPAが実現すれば、SWYの目的に継続して

取り組みます。

過去事業にあった「レター・グループ」は、各国PYの混成グループで、CDのような共通の関心、あるいは委員会のような共通のスキルで選択し集まったグループではなく、本来の意味での多様性を体験し、異文化理解を深める場でした。今年度は、公式にはレター・グループが設定されていませんでしたので、代わりとなる「ホーム・グループ」を設定することを、事務局のサポートのもと、NLが決めました。モーニング・アセンブリーの時間が限られていたため、ホーム・グループに使用できた時間はわずかでしたが、それでも、多くのことを成し遂げることができました。ホーム・グループは、(1) 無作為に選ばれたホーム・グループ・メンバーの多様性に触れ、お互いのことを知り、多様性に触れる機会であり、(2) 自分の居場所・楽しい場所であり、(3) 歓迎される場所でした。コロナ禍後のSWYハイブリッドにおいて、過去の事業と比べて特に重要だったのは、PYのメンタル面のケアです。私のホーム・グループに所属する3名のPYが、個別に、ホーム・グループの重要性について語ってくれました。そのPYによると、ホーム・グループは居心地が良く、CDや委員会活動に参加している時よりも、気軽に話しかけることができ、深い関係性を築くことができた、ということです。このコメントからも、ホーム・グループで過ごした時間がわずかでも、チーム・ビルディングと、自身の行動に自信をもつことに寄与していることが分かります。

SWYスピリットに命を吹き込む

SWYのような小さなグローバル・コミュニティでは、たとえ短時間であっても文化的・地理的境界が消え、強いつながりが生まれます。そうしたつながりは、西洋の個人主義を超越し、東洋文化の特徴である集団主義に私たちを近づけます。コミュニティであるという感覚は、家族、すなわちSWYファミリーを生み出します。

SWYハイブリッドの旅は、船に乗って海上に繰り出すものではありませんでした。しかし、私たちの物語、ルーツ、人間性を共有する対話に入っていくと、そこには深い海がありました。Keep SWYing!

(4) カナダ

ナショナル・リーダー

令和4年度「世界青年の船」事業（ハイブリッド）カナダ・デリゲーションのNLとして、この素晴らしい事業にカナダを参加させてくださったことに對し、日本国政府に心から感謝申し上げます。

SWYハイブリッドは、カナダと日本の間のパートナーシップが強化される中で行われました。カナダは新たなインド太平洋戦略において日本を重視しており、その中には人と人との交流をさらに進める取組も含まれています。SWYは日本の内閣府が主催する事業ですが、文化外交とグローバルな交流の素晴らしいモデルとなっています。

本事業が次世代のグローバル・リーダーを育成していることに疑いの余地はありません。各国で活躍する多様な青年を募り、知識の豊富なファシリテーターと組み合わせ、ハイレベルなテーマに関連した活動や訪問のプログラムを入念に準備することで、それを実現しています。

世界的な健康・環境危機、地政学的緊張の高まり、独裁主義的ポピュリズムによる自由民主主義への圧力、サプライチェーンの問題や経済安全保障を理由に退行するグローバル化に直面している時、SWYのような事業は、国際協力を促し、志を同じくするパートナー間の連携を強化するに当たって極めて重要な役割を果たします。

ハイブリッド形式

今年度初めて、SWYはハイブリッド形式を採用し、日本での対面交流の前に、オンライン交流でのディスカッションが行われました。今年度は船を使用しませんでした。新型コロナウイルス感染症の感染拡大リスクが高まることを防ぎつつ、ハイブリッドの活動を通してSWYの精神を維持できました。

船上で活動した過去のプログラムと比較して、プログラムの期間が短かったこと、オンライン交流の方が日程調整が容易であったことから、通常とは異なる属性の参加者も事業に加わることができました。カナダ・デリゲーションのメンバーの多くは、多忙な職業に就いているか、積極的にボランティア活動を行っています。両方に該当する者もいます。そうしたメンバーが、長期間のSWYに参加することは難しかったかもしれません。しかし、ハイブリッド形式であったことで、こうした優秀なメンバーが参加でき、事業全体の利益になりました。

Zoom及びoViceによる交流が行われたということは、SWY史上初めて、PYが対面交流の前に互いにつながらることができたということです。そのため、プログラム中もその後も友情を深めることができました。SWYの公式な全体プログラムに加え、oVice、WhatsApp、Slack、コース・ディスカッション（CD）グループ、ホーム・グループ、デリゲーションを通したメールといった補助的なプラッ

トフォームによって、有意義な関係が結実しました。確かに、時差、技術的知見、全ての国が同じコミュニケーション・プラットフォームを使っているわけではないといった課題もありますが、長期的に複数の選択肢があることで、何らかの方法で参加することができます。

さらに、オンライン交流と対面交流が時間的に離れていたため、PYは、普段の生活の中でディスカッションを振り返ったり、対面交流の準備をしっかり行ったりと、CDのトピックに対してより積極的に取り組むことができました。

地方プログラム・課題別視察

今年度のSWYには、東京での2回の課題別視察と、3泊4日の地方プログラムが含まれていました。課題別視察では、CDのテーマに関連する興味深い施設や場所への訪問などを行いました。地方プログラムでは、CDグループごとに、8県市を訪れました。

SWYでの体験は、他のどの事業とも異なります。その大きな理由は、熟慮されたプログラムであることです。課題別視察と地方プログラムは、PYがCDのトピックについて真に魅力的かつ有意義な方法で学ぶ、素晴らしい機会です。教科書を通じた標準的な教育とは異なり、SWYはPYに対し、通常は観光客、学生、ビジネスパーソン等が触れることのできない、様々な興味深いプロジェクトに従事する人々と長時間にわたって直接会う機会を提供します。現場で自分の目で見て、経験と知識の豊富なファシリテーターを伴い、グローバルな重要課題について独自の観点を共有できる11か国から来た少人数の新たな友人と共に学ぶ以上に良い学習方法はありせん。

地方プログラムは、PYの誰に聞いても大きな成功であり、SWYの体験全体におけるハイライトの一つでした。会議室で行われるPY全員でのディスカッションでは圧倒されることもありましたが、地方プログラムではそれを埋め合わせるように、ほとんどが異なる国出身の少人数グループの友人たちと充実した時間を長く過ごせました。さらに、常道から外れ、観光客が普段あまり訪れない県市を訪問することで、日本で真正かつ忘れられない経験ができました。私のCDは青森県を訪問し、多くのPYは初めて雪を見て、泣き出した者もいるほど興奮していました。地元の生徒たちが箏で「さくら」を演奏し歓迎してくれたことに感動したPYもいました。こうした思い出は一生忘れません。

まとめ

オンライン交流と対面交流のプラットフォームの良いところを兼ね備えるSWYハイブリッドは、大きな成功を

収めました。PYはZoom上で顔を合わせてプログラムについて議論し、対面交流における知識と友情の基盤を作りました。熟慮された日程には、地方プログラム、課題別視察、CD、ピア・ラーニング・セミナー、自主活動が含まれ、それぞれが互いに補完し合って、個人的なつながりを強めプログラムのテーマを充実させていました。

(5) 日本

ナショナル・リーダー

全体に関するコメント

SWYハイブリッドでの経験は、私にとってまったく新しい経験でした。私たち全員が様々なことを経験していて、どれも同じではないと感じました。もちろん、いくつかの共通の経験がありますが、コース・ディスカッション (CD) が中心となっていました。この設定では、CDのメンバーをよく知ることができ、CD単位で多くの時間を一緒に過ごしたことにより、それぞれのCDの絆は強く、深くなりました。また、SWYの学術的側面に焦点を当てるのが可能となりました。マイナス面としては、別のCDやデリゲーションに所属する他のPYの多くと知り合えなかったことです。技術的な理由で仮想空間における交流に参加できなかった者も多かったため、今後はオンラインセッションよりも長い対面交流を望みます。そうすれば、私たちは常に焦ることなく、より良い関係を築くための時間が増え、より公平な感覚をもたらすことができたかもしれません。

NLミーティングに関して

私たちはNLとして、考えや決定においてほとんど団結していました。これは、日本の文化や価値観を理解していることと、過去にSWYに参加していたという経験を共有していたからだと思います。しかし、SWYハイブリッドは私たちにとって非常に新しいものであったため、このプログラムを実りあるものにするために多くの課題がありました。第一に、私たちは異なるタイムゾーンに住んでいるため、NL間で1回のZoomミーティングを行うことさえ容易ではありませんでした。また、文字でのメッセージのやり取りは、非言語的な合図に頼れないことを意味していました。つまり、特に異なる文化的規範や英語レベルでやり取りをする場合、様々なメッセージの背後にある口調や意図を理解するのがしばしば難しかった、ということです。それゆえに、私たちは、ルールを決定するため、そしてNLのチーム・ビルディングのため、最初にミーティングを行うことが非常に重要であることがわかりました。私たちは一緒にオンライン会議を行うために最善を尽くしましたが、多くの場合、睡眠又は会議に完全に参加すること、これらのいずれかを犠牲にしました。最後に、SWYに初めて参加する全てのNLに対

するサポートの必要性を感じました。各国の元NLが、準備のためのパディとなれば、その者たちにとって非常に役に立ち、彼らの負担を軽減することができます。

地方プログラムに関して

地方プログラムは過去事業ではOPY向けに用意されたプログラムでしたが、私たちはOPYたちと小さなグループ単位で各県市を訪問し、一緒に滞在を楽しむことができて、とても幸運でした。私たちはほとんどの内容を楽しみ、私たちを受入れてくれた地元の人々の、ボランティアとして素晴らしいプログラムを準備してくれた熱意に驚きました。受入れてくれた人々の素晴らしいホスピタリティは私たちに感銘を与え、彼らから学びたいと思わせてくれました。将来に向けた改善点としては、スケジュールをぎっしり詰めないということです。本プログラムを通してそうでしたが、忙しいスケジュールでとても疲れており、午後遅くのレクチャーに集中するのは大変でした。しかし、地方の人々が私たちにベスト・オブ・ベストの体験をさせたいということを心から感じ、それに応えたいと感じました。この共通の経験がOPYとJPY、そして地元青年の間の絆をより強いものにし、PYたちはCDごと、家族のようになりました。地方プログラム中に自由時間がたくさんあることは街を散策したりするには良いですが、自由時間を削っても、公式プログラムをゆとりをもった時間設定とすることで、もっとリラックスし、重要な講義に集中でき、よりその地方のことを学べて良いのでは、と感じました。

ルームシェアと共有スペースに関して

私たちは相部屋を維持することに成功し、NLは、PYたちがルームメイトと楽しい時間を過ごしているのを見てとてもうれしかったのですが、その一方、PYはプログラム中に何度も荷物をまとめて移動することを余儀なくされてしまいました。これに関しては、PYたちの理解に感謝しています。また、PYたちが公式プログラム外で交流するための大きな共有スペースがないことは、PYたちにとって非常に困難でした。今年度は、船とは異なりホテルという公共の場での活動となり、使用時間や内容に制限がありましたが、来年度以降は大きな談話室が一つ

でもあれば、SWY中に偶然の出会いが増えたり、自分のCDにいない人たちと友達になったり、友人の輪が広がって良いかもしれません。

ピア・ラーニング・セミナー (PLセミナー) と自主活動 (VA) に関して

PYたちは、創造的で有意義なPLセミナー・VAを作りあげるため、多大な努力を払い、彼らの情熱は参加者にポジティブなエネルギーを与えていました。しかし、PLセミナーへの出席が任意であると思い、欠席しているPYもいました。これはとても残念で大きな損失でもあるので、PYたちにあらかじめ参加するセミナーを選択してもらい、責任を持たせるべきだと思いました。言うまでもなく、セミナーの質は高く、今後のSWYでも継続していく必要があると思います。また、非常に多くの興味深いVAがあり、どれに参加するか決めるのが困難でした。多くのVAが同時に開催されていたため、VAの枠がもっとあれば良いのと思いました。

CDに関して

CDの内容はとても充実していました。ファシリテーターの皆さんは、コースメンバーのために熱心に取り組

サブ・ナショナル・リーダー

はじめに

コロナ禍を経て、歴史ある本事業で初となるオンラインと日本での対面というハイブリッドでの実施、約150名の青年が予定通り無事に家路につくことができたことは、普段、フィリピン・日本を繋いで、青年育成を行っている身としても素晴らしい成果の一つであると感じている。

この結果は、事前段階から健康管理、コロナ対策を徹底した内閣府、(一財) 青少年国際交流推進センターをはじめ、関係各位の皆様方のご尽力の賜物と存じ、深く感謝申し上げます。

オンライン交流

ハイブリッド事業の特徴の一つであるオンラインでの交流について、①世界から集まっているため時差の関係で全ての国が参加することが難しいこと、②ビデオ通話に十分なインターネット環境がそもそも整備されていない国があること、③オンラインミーティングには基本顔を出さないで音声だけで参加する文化の国があること、など、平等なオンライン環境を整備すること自体にチャレンジを感じたスタートであった。

そんな状況でもオンライン交流プラットフォームoViceを活用し、本プログラム開始より先に、oVice開会式を企画し、参加者の笑顔を作っていた青年たち、デジタル・ネイティブといわれる青年らが軽々とチャレンジ

しており、サマリー・フォーラムからも大きな成果を感じました。サマリー・フォーラムは、SDGsの多くの重要な要素と、この世界を全ての人にとってより良い場所にするために何をすべきかを示していました。個人的には、全てのPYが技術的な問題なく参加できることを前提に、対面交流の前にオンラインでCDを実施することは適切であると思いました。

終わりに

最後に、この事業を支援してくださった全ての方々と、陰で懸命に働いてくださった全ての方々に感謝いたします。皆さんの継続的な協力にお礼を言いたいです。この事業は他に類を見ないものであり、劇的かつ即時の成果をはかることは困難ですが、この事業はPYたちが、異なる背景を持つ人々に対する偏見を取り除くことを助けています。私は、これこそがグローバル・リーダーを育成し、世界平和を育む最善の方法であると確信しています。今年度のCDの学術的基準を維持し、以前のSWYの大事な要素を引き継ぐことができれば、更に有益で変革をもたらす事業になると思います。特に、リーダーシップそのものを学ぶための枠を増やすと、より良くなると思います。

を超えていく姿が頼もしく写った。

また、オンラインで事前に会っていたからこそ、成田であった時に、出会いを喜ぶところから始められたのもオンラインから始めるメリットのひとつであると感じた。

個人的には、各国のNLとのオンラインでの事前準備から多くの学びを得たことを取り上げたい。NL主体でのオンライン交流の準備や対面時のルールメイキングの時間を通じて、過去のPYでもあるNLらの本事業へのコミットメントの高さや多様なバックグラウンドからくるアイデアに驚かされた。この経験は、今後の人生でも活きる財産だと感じている。

プログラムが終了した現在でも、WhatsAppで現地の様子が共有され、つながり続けている感覚が強く持てているのは、オンライン交流から始まったハイブリッドならではの成果である。

究極のグローバル・リーダーシップ育成プログラム

本事業へ参加するにあたり、歴代のNLに話を伺う機会が何度かあった。その中で、本事業のことを「究極のグローバル・リーダーシップ育成」と表していた言葉が印象に残っており、本事業へ参加することを通じて、その言葉の意味を理解していき、いくつかの要素からそれが構成されているように感じた。

① リーダーという役割が多数設けられていること：本

事業の中で委員会やフォーラムなどチームに分かれた時に、リーダーという役割が設けられていた。これは、言うまでもなくリーダーシップを発揮する挑戦ができる機会につながっていた。

- ② 得意を活かせる機会があること：ナショナル・プレゼンテーションやセミナーなどで、自分がこれまで培ってきたことを披露する機会があることも同様に、その青年にスポットライトがあたり活躍する機会につながっていた。
- ③ 青年が輝く姿が他の青年の輝きに連鎖する：他の青年が、本気で自分が得意なことを表現する姿を目の当たりにすることを通じて、「自分もやってみたい」という気持ちが呼び覚まされ、リーダーシップを発揮したい状態になり、チャンスが来た時にそれを表現できる状態になっていた。

日本青年の奉仕の精神からのリーダーシップ

様々なリーダーシップの中でも切り出して紹介したいのが日本青年が随所で発揮していたリーダーシップである。

フーディの販売、世界の青年に日本を楽しんでもらいたいという想いからくる様々な工夫、タイムマネジメントなど挙げ始めたらキリがないほど、役割を定めていないけれども、誰かがやらなくてはならないことを率先し

て覚悟を決めて取り組んでいる何人もの日本青年たちの姿を幾度となく目にした。

また、チームの関係性の質を深めるために、会を開いたり、お互いの話を聴き、共感し、時には相手にとって耳が痛いことも勇気をもって伝え、腹を割って対話している場面には心を動かされた。

私は、それもリーダーシップのひとつ形だということ、を、本事業を通じて改めて学んだ。青年らが発揮した「奉仕の精神」から来るリーダーシップはこれからの時代とても重要になると考えている。

本事業を通じてそれにチャレンジし、やってみただけ自分が損しただけなどと捉えずに、それがいかに人を笑顔にしたか、感謝されたか、全体に貢献したかに目を向けてほしい。そして、次やるときはもっと人を巻き込んでみようなど新たな挑戦を今後の活動でも継続していくことを願っている。

最後に

今後私は、本事業で得た貴重な経験、学び、つながりを活かし、世界の逆境に立つ子ども・若者たちの夢と自立を応援することを通じて社会に貢献していく。

近い将来、PYたちと一緒にプロジェクトを共創し、共にワクワク働けることを心から願っている。

(6) メキシコ合衆国

ナショナル・リーダー

コロナ禍の後、最初のSWYに招へいいただいたことを大変光栄に思います。協力強化のため技術と対面での活動とが組み合わされたハイブリッド形式が重要な役割を果たす、新たな時代が確かに始まっています。ハイブリッド形式を採用することで、対面交流前であっても顔を合わせることができ、関係を作ることができます。

地方プログラムは、デリゲーションのそれぞれのメンバーが日本の北から南まで異なる県市を訪問するという新たな動きがあり、非常に充実していました。異なる気候や観光地を体験するだけでなく、異なる見方に耳を傾け理解する機会となりました。地元青年や実行委員の方々は、明るく親切であっただけでなく、綿密に企画された興味深い活動を用意してくださいました。

コース・ディスカッションは、PYが事業において最も強固な関係を作った、重要な役割を果たした活動でした。

日本での素晴らしいプログラムの中で、様々な味わい、場所、人々、考え方、規律に出会い、日本だけでなく、異なるデリゲーションの新たな見方や観点からの学びがありました。

今回は船上での活動ではありませんでしたが、困難にめげない、一致団結している、多様であるといった、事業のSWYスピリットは変わりません。大きく広がるSWYAAファミリーに、最も若い世代を形成し、自身のコミュニティ又は海外でも国際協力を通じて新たなプロジェクトを作り出す、強い価値観を持った新たな家族が増えました。

日本国政府、事業の事務局、そしてこの事業を唯一無二の特別なものとしてくださる全ての方々に感謝したいと思います。